

済生会横浜市東部病院病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

責任基幹施設である済生会横浜市東部病院、関連研修施設である慶応義塾大学病院、他11関連研修施設において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

本専門研修プログラムは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、責任基幹施設で研修を行う。
- 慶応義塾大学病院では、最低6ヶ月は研修を行う。

- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、状況に応じて11関連研修施設でのローテーションを構築する。

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	済生会横浜市 東部病院	済生会横浜市 東部病院6ヶ月、 慶應義塾大 学病院6ヶ月	済生会横浜市東部病 院6ヶ月、東京都立 小児総合医療センタ ー6ヶ月	国家公務員共済組合 連合会立川病院6ヶ 月、済生会横浜市東部 病院6ヶ月
B	済生会横浜市 東部病院	慶應義塾大学 病院6ヶ月、済 生会横浜市東 部病院6ヶ月	関東中央病院6ヶ月、 済生会横浜市東部病 院6ヶ月	東京都済生会中央病 院6ヶ月、済生会横浜 市東部病院6ヶ月

週間予定表

済生会横浜市東部病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
オンコ ール			オンコ ール				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：2,669症例

本研修プログラム全体における総指導医数：56人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	68症例
帝王切開術の麻酔	130症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	164症例
胸部外科手術の麻酔	119 症例
脳神経外科手術の麻酔	145症例

① 専門研修基幹施設

済生会横浜市東部病院

研修プログラム統括責任者：佐藤智行

専門研修指導医：佐藤智行（麻酔，集中治療）

谷口英喜（麻酔）

高橋宏行（麻酔，集中治療）

鎌田高彰（麻酔）

菅規久子（麻酔）

永渕万里（麻酔）

小松崎崇（麻酔）

専門医：十河大悟（麻酔）

秋山容平（麻酔）

三浦梢（麻酔）

富田真晴（麻酔）

金井理一郎（麻酔，集中治療）

認定病院番号 1315

特徴：済生会横浜市東部病院は平成19年3月に開院し、地域に根ざした横浜市の中核病院として、そして済生会の病院として、救命救急センター・集中治療センターなどを中心とした急性期医療および種々の高度専門医療を中心に提供する病院である。また、急性期病院であるとともに、ハード救急も担う精神科、重症心身障害児（者）施設も併設されている。また、「より質の高い医療の提供」に加え「優秀な医療人材の育成」も重要な使命と考え、研修医、専門医の育成にあたっており、医師、すべての職員が、充実感をもって働くことができる職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる。

麻酔科管理症例数 5,500症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開術の麻酔	100症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	95 症例
胸部外科手術の麻酔	70 症例
脳神経外科手術の麻酔	95症例

② 専門研修連携施設A

慶應義塾大学病院

研修実施責任者：森崎浩

専門研修指導医：森崎浩（麻酔、集中治療）

橋口さおり（麻酔、緩和医療）

小杉志都子（麻酔、ペインクリニック）

鈴木武志（麻酔、集中治療）

山田高成（麻酔、集中治療）

長田大雅（麻酔、集中治療）

加藤純悟（麻酔、心臓麻酔）

村瀬玲子（麻酔、小児麻酔）

上田朝美（麻酔、集中治療）

井上敬（麻酔、心臓麻酔）

五十嵐達（麻酔、区域麻酔）

増田清夏（麻酔、小児麻酔）

専門医：南嶋しづか（麻酔）

増田祐也（麻酔、区域麻酔）

西村大輔（麻酔、ペインクリニック）

箕島梨恵（麻酔、小児麻酔）

伊原奈帆（麻酔、ペインクリニック）

奥田淳（麻酔、集中治療）

本田あやか（麻酔）

佐々木綾（麻酔）

若泉謙太（麻酔）

寅丸智子（麻酔）

出野智史（麻酔）

鈴木悠太（麻酔、ペインクリニック）

吉野華菜（麻酔）

認定病院番号 3

特徴：教室開設より 60 年という長い歴史があり、診療、教育、研究全てに長けた施設です。現在、慶應病院における麻酔科の診療は手術麻酔のみならず、集中治療、ペインクリニック、疼痛緩和治療と多岐にわたっており、また呼吸ケアチームの一員として、院内の人工呼吸器管理にもあたっています。大学病院なので心臓外科・呼吸器外科・小児外科などの特殊麻酔も数多く、専門医になるための必要症例を十分に経験できます。研修医

勉強会、英語論文抄読会、教科書輪読会、学会発表、論文作成など教育を受ける機会も豊富です。

麻酔科管理症例数 9,071 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20 症例
帝王切開術の麻酔	20 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20 症例
胸部外科手術の麻酔	20 症例
脳神経外科手術の麻酔	20 症例

東京都済生会中央病院

研修プログラム統括責任者：中塚逸央

専門研修指導医：中塚逸央（麻酔）

柏木正憲（麻酔）

櫻井裕教（麻酔，集中治療）

西脇千恵美（麻酔）

安村里恵（麻酔）

籠谷亜弥（麻酔）

専門医：吉武美緒（麻酔）

認定病院番号 978

特徴：区中央部の地域医療支援病院として地域医療の中核としての役割を担っている。東京都指定二次救急医療機関及び救命救急センターに指定されており、年間5000人以上の救急搬送患者を受け入れている。麻酔科管理の対象は、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、脊椎手術、血管手術など幅広い症例をカバーしている。2017年度からは産科が再開になり、産科麻酔の増加が見込まれる。手術室外では、放射線室での脳血管内治療の麻酔も行っている。

麻酔科管理症例数 2,943 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔	10 症例

(胸部大動脈手術を含む)	
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	10 症例

公立学校共済組合 関東中央病院 (以下、関東中央病院)

研修プログラム統括責任者：重松次郎昌幸

専門研修指導医：重松次郎昌幸 (麻酔)

丹藤陽子 (麻酔)

中村裕也 (麻酔)

認定病院番号 1319

特徴：関東中央病院は高齢化が進む世田谷区において、急性期医療を担う中核病院となっている。ここ数年は、がん治療でも高度な専門的医療に取り組んできた。地域支援病院として、更には東京都がん診療連携協力病院として、人口約90万人の世田谷区民を、また二次保健医療圏のうち東京都区西南部医療圏の約130万人の都民の救急医療の担い手として、地域に貢献している。手術治療における主な診療科は、一般消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科・整形外科・泌尿器科等が挙げられるが、その他産科・小児外科・耳鼻咽喉科を除くほぼ全ての診療科に於いて手術治療を含めた総合的な治療が行われている。麻酔科管理症例2000件余りのうちの殆どで全身麻酔が施行されている。また鎮痛のための硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・各種神経ブロック等も積極的に併施しており、麻酔管理・周術期管理における指導体制も充実させている。

麻酔科管理症例数 2,076症例

	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	10 症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	5症例

東邦大学医療センター大橋病院

研修プログラム統括責任者：小竹良文

専門研修指導医：小竹良文 (麻酔)

豊田大介 (麻酔)

牧裕一（麻醉）

認定病院番号 193

特徴：周術期センターが設置されており、麻醉科医、薬剤師、看護師、歯科衛生士による総合的な評価を行い、術前から術後まで安全で質の高い管理が可能となっている。ペインクリニックは麻醉科発足以来、慢性疼痛の診断と治療を全国に先駆け教室のテーマとしている。また、集中治療、呼吸ケアチームでも麻醉科が中心となり活動している。病院開設から50年、2019年には新病院が開院予定でこれから活躍の場がますます増えてくることが予想される。

麻醉科管理症例数 2,991 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	0 症例
帝王切開術の麻醉	0 症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻醉	0 症例
脳神経外科手術の麻醉	0 症例

国家公務員共済組合連合会立川病院

研修プログラム統括責任者：福積みどり

専門研修指導医：福積みどり（麻醉）

羽鳥英樹（麻醉）

富澤和夫（麻醉）

認定病院番号 337

特徴：東京都多磨地区の中心都市として発展している立川市にある病院です。2017年4月には救急科が新たに開設され、7月には新病院がオープンします。研修においては、麻醉科医としての知識や技術を身につけるだけでなく、チーム医療に欠かせないコミュニケーション能力を身に付け、これからの医療で必要とされる医師の育成をこころがけています。勤務体系についても、様々な状況に対応しつつキャリアをつけるような体制を整えていますので、女性医師も大歓迎です。

麻醉科管理症例数 2,387症例

	本プログラム分

小児（6歳未満）の麻酔	3症例
帝王切開術の麻酔	5症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	4 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

日本鋼管病院

研修プログラム統括責任者：佐藤公泰

専門研修指導医：津崎晃一（麻酔）

佐藤公泰（麻酔）

熊丸春美（麻酔）

善福美砂子（麻酔）

認定病院番号 1252

特徴：日本鋼管病院は、川崎市南部地区の地域中核病院として、開院以来、一貫して地域医療の発展と高度医療の提供に貢献しています。地域完結型の医療体制確立のために、当院の提供できる医療の幅を地域医療の要望に合わせて広げて来ています。麻酔科・ペインクリニック外来では、主に慢性疼痛を対象に疼痛緩和や生活の質・日常生活の向上を目的とした「薬物治療」や「神経ブロック」、「手術療法」を行っています。手術症例では整形外科関連の手術が増加してきており、MEPの使用頻度も高く、TIVAや腹臥位での麻酔管理が多くなっています。

麻酔科管理症例数 2,458症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

さいたま市立病院

研修プログラム統括責任者：忍田純哉

専門研修指導医：忍田純哉（麻酔）

中村教人（麻酔、集中治療）

橋内章（麻醉）

佐久間貴裕（麻醉、集中治療）

植松明美（麻醉）

麻醉科認定病院番号 612

特徴：さいたま市立病院は、地域の基幹病院として、急性期医療を中心に高度な医療を提供するという使命・役割を果たしている。内容はあらゆる科・臓器にわたっており、麻醉の研修に不足は全くない。救急医療も積極的に推進しており、循環器・心臓外科や脳神経外科を含めた緊急手術の麻醉管理の研修が可能である。NICUを完備した周産期センターを併設しているため、ハイリスク妊娠患者の麻醉管理から、低体重の新生児麻醉まで研修可能である。がん診療拠点病院でもあるため、高齢者の管理を含め、がん関連の症例からも学ぶこと（疼痛管理も含めて）は多い。地域の高齢化もあり、骨折等の整形外科手術も多く、神経ブロックの習得にも有利である。

麻醉科管理症例数 3,644症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	5症例
帝王切開術の麻醉	5症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	5症例
胸部外科手術の麻醉	5症例
脳神経外科手術の麻醉	5症例

新百合ヶ丘総合病院

研修プログラム統括責任者：伊藤 寛之

専門研修指導医：伊藤 寛之（麻醉、ペインクリニック）

高崎 正人（麻醉、ペインクリニック）

専門医：吉村 達也（麻醉）

長岡 武彦（麻醉、心臓麻醉）

中西 英世（麻醉、緩和医療）

麻醉科認定病院番号 1598

特徴：地域の中核病院であり、内視鏡手術、ロボット手術、脊椎外科、脳神経外科の手術件数が多い。

麻醉科管理症例数 5,437症例

	本プログラム分
--	---------

小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

③ 専門研修連携施設B

東京都立小児医療総合センター

研修実施責任者： 西部伸一

専門研修指導医：西部伸一（小児麻酔、心臓血管麻酔）

山本信一（小児麻酔、心臓血管麻酔、区域麻酔）

宮澤典子（小児麻酔、ペインクリニック、区域麻酔）

北村英恵（小児麻酔）

認定病院番号 1468

特徴：東京都立小児総合医療センターは、急性期医療や治療が困難な小児患者への高度専門治療と小児救命救急医療を提供する施設である。小児患者への総合的な医療を提供するため、産婦人科を除く全診療科があり、小児がん拠点病院、こども救命センターの指定を受けている。また、隣接する多摩総合医療センターとともにスーパー周産期センターの指定を受けており、緊急に母体救命処置を必要とする妊産褥婦を多摩総合医療センターで受け入れ、連携して治療を行っている。

麻酔管理全症例の6割強（約2500症例）が6歳未満小児患者で、多くの責任基幹研修施設のプログラムで関連研修施設となり、小児麻酔研修を行っている。麻酔管理全症例の約3割（約1200件）で区域麻酔を併施しており、超音波エコー下神経ブロックを積極的に行っていて、指導体制を整えている。

麻酔科管理症例数 4,156症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0症例

脳神経外科手術の麻酔	0症例
------------	-----

川崎市立井田病院

研修実施責任者：石川明子

専門研修指導医：増田純一（麻酔）

石川明子（麻酔）

認定病院番号 1284

特徴：2015年3月に外来および病棟が一新され、救急センター、内視鏡センター、化学療法センター、透析センターの機能を充実した383床の病院に生まれ変わった。従来から、緩和ケア病棟を設置し、在宅医療にも力を入れているが、最近、救急部門の拡張も図り、これまでの約3倍のスペースと救急車がすぐ横付けできる設備を整えた。これらの機能を十分に発揮し、安全安心で質の高い医療の提供を目指している。また、医師・看護師等の教育支援のため、基幹型の臨床研修指定病院として初期臨床研修医の受け入れや新たに開始される専門医制度に備えた整備を進めていて、専門看護師や認定看護師取得支援等、提供する医療の質を高めるべく人材の育成に努めている。今後は地域完結型医療のさらなる充実に向けて、地域の医療機関との連携を密にし、近隣の病院との機能分担と協力を推進し、地域全体で住民の皆さまの健康を守るという視点で医療に取り組んでいく。

麻酔科管理症例数 1,412症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	4症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

社会医療法人財団石心会川崎幸病院

研修実施責任者：高山渉

専門研修指導医：高山渉（心臓血管麻酔）

認定病院番号 1480

特徴：当院では、全国でもTOPの件数の胸部・胸腹部大動脈手術実施実績があり、麻酔科専門医育成の上では、多くの心臓血管外科手術の麻酔を経験できることが最大の特徴であると考えています。特に胸腹部大動脈瘤手

術を数多く経験できる施設は多くは存在しないと考えております。当院では胸腹部大動脈瘤手術に加え、緊急手術も多く、管理にも多様なバリエーションがあり、専門医教育施設として今後も発展できると考えております。教育という名の消耗戦にならぬよう、システムをしっかりと整備して対応して参ります。

麻酔科管理症例数 4,603症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20 症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	10症例

5. 募集定員

1名

（*募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、済生会横浜市東部病院麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

済生会横浜市東部病院 麻酔療科部長 佐藤智行

神奈川県横浜市鶴見区下末吉3-6-1

TEL 045-576-3000（代表）

E-mail tomoyukisatoh@seagreen.ocn.ne.jp

Website : <http://www.tobu.saiseikai.or.jp>

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力，問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1) 臨床現場での学習，2) 臨床現場を離れた学習，3) 自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットを

もとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムでは、神奈川県横浜市北部地域の中核病院として急性期医療および種々の高度専門医療を中心に提供する済生会横浜市東部病院が、日本最高峰の医療水準と伝統を誇る慶應義塾大学病院、東京都心港区で地域医療の中核として役割を担っている東京都済生会中央病院、世田谷区成人医療の中核病院として信頼の厚い関東中央病院、東京都目黒区でペインクリニックをはじめ周術期センターも設置されている東邦大学大橋病院、多摩地区立川市でチーム医療を実践している国家公務員共済組合連合会立川病院、川崎市南部地区で地域完結型医療体制を目指し、ペインクリニック外来も実施している日本鋼管病院、埼玉県でさいたま市の基幹病院として小児外科・産科・心臓外科を含む幅広い医療を提供しているさいたま市立病院、小児医療分野で国内最高水準の東京都立小児総合医療センター、川崎市中部地区で従来からの緩和ケアの実践に加え、救急部門も拡張し、質の高い医療の提供を目指している川崎市立井田病院、全国1の胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈手術実績を誇る社会医療法人財団石心会川崎幸病院、と幅広く連携している。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設や、様々な特徴を持つ施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法

を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。